

今年もお盆の季節となりました。

暑い中、いつも通り準備に取り掛かり、お仏壇やお墓のお掃除なども同じ様に出
来たけれど、さてご先祖様は今年も同じ様にいらっしゃるのだろうか？あれから何
年経ったかな、と思う方も多いのではないのでしょうか。

亡くなった人は歳をとらないとよく言われます。生きていれば何歳になるのか？
指折り数えればわかる事でしょうが、生きていればどのような姿なのか、想像が
つきませんね。どうしてでしょうか。例えば亡くなった親と同年代の人を自分の親の
遺影と見比べても、ぴんと来ないものです。

亡くなられたのが早ければ、いずれ自分も亡くなった親と同じ年齢になります。
その時に、ああ、この歳まで守ってくれ、育ててくれたものだなあと想うのではな
いでしょうか。目に見えないけれど、お蔭様、有り難いと感じるものです。

お盆にはご先祖様は毎年同じ様に、それこそ何代も続く家でしたら何百年も同じ
ように帰って来て下さるのではないのでしょうか。気が付くと、お迎えする側は歳を
とってゆきます。そして、亡くなったところで歳がとまります。亡くなるまで、人
は成長するのです。いつかご先祖様になってそのことを気付かせる為に。その役割
になるのは、その時が来るまで分かりません。

ご先祖様をお迎えする、迎え盆では、馬に見立てた胡瓜を飾り、お供えします。
来る時は身一つなのではないでしょうか。荷物はあまり無いのですね。何よりもとにかく、
ご先祖様も皆に逢いたいのですね。一年ぶりのおひさしぶりです、大歓迎です。

お盆中は沢山の人が入れ替わり立ち替わり、ご先祖様に会いに来ます。一人一人、

『 禅のこころ -曹洞宗- 』

お線香をあげてゆきます。折角だからお酒も飲んで欲しいのですが、車で来られた方には、お土産にお持ちくださってもよいでしょう。

送り盆は牛に見立てた茄子を飾ってお供えをし、ありがたいの気持ちで丁寧にお送りいたします。

来年も又来てね。元気でお迎えしますからね、約束です。という気持ちでお送りしてみても如何でしょうか？

それがご先祖様への供養となるのです。

— 終 —